三重県産業廃棄物実態調査について

1. 調査の目的

令和5年度における三重県内の産業廃棄物の発生、処理状況等の実態を調査し、併せて将来の予測を行うことにより、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第5条の5の規定に基づく廃棄物処理計画策定ための基礎資料を得ることを目的としています。

2. 調査の方法

本調査は、県内の産業廃棄物の発生、処理状況等を業種別、種類別、地域別等に詳細に解析し産業廃棄物の現状を把握するため、郵送によるアンケート調査等により実施します。

3. 調査対象期間

本調査は、令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）の1年間に三重県内で施工した元請工事（出来高工事を含む）を対象とします。この期間中に発生した廃棄物の状況について記入してください。

4. 対象産業廃棄物

別添の「廃棄物分類番号表」に示す廃棄物を対象とします。ただし、本調査では通常の産業廃棄物の他に、自社内で再生利用したものや他者に売却した物も対象となりますので併せて記入してくださ い。

5. 調査票の構成

本調査は以下の調査票および参考票から構成されています。

◇三重県産業廃棄物実態調査について（本票）　：１部
◆調査票【その１】【その２】実態調査票　：１部
◆調査票【その３】意識調査票　：１部
◇廃棄物分類番号表　：１部

調査票の様式（EXCELデータ）は、下記アドレスよりダウンロードできますので御活用ください。
帝人エコ・サイエンス株式会社ホームページアドレス
URL ： https://www.teijin-eco.jp/product/consultant/mie_sanpai.html

帝人エコサイエンス　三重県　検索

6. 記入方法

本票の「調査票の記入要領・記入例」を参考にして記入してください。
「電子マニフェスト」を利用して処理委託をした廃棄物については、【その2】の記入の必要はありません。
また、記入するかわりに**「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」**のコピーを添付していただいても構いません。
なお、不要となったものを**「売却」**している場合、廃棄物等に該当しない場合もありますが、調査の対象としていますので、【その2】の記入をお願いします。

7. 提出方法

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**令和6年10月18日（金）**までにご返送をお願いします。（切手は不要です。）
なお、ホームページより調査票をダウンロードされた方は、メールでの提出も受け付けております。
提出先メールアドレス：sanpai@teijin.co.jp

8. その他

ご提出いただいた記入内容について、お問合せする場合もありますので、調査票の控えを取っておいていただきますようお願いいたします。

※ 秘密の保持について
本調査における内容については、目的以外に使用せず、個々のデータについては、秘密を遵守します。

記入方法に関するお問合せは、本調査業務を三重県から受託している帝人エコ･サイエンス㈱までお願いします。
フリーダイヤル：0120－296－425　　e-mail：sanpai@teijin.co.jp

形式－D

＜調査票の記入要領・記入例＞

※この資料には、調査票の具体的な記入例が記載してあります。
※お手数ですが、この「記入例」を参考にして調査票にご記入の上、同封の返信用封筒（切手不要）にて、ご返送くださいますようお願いいたします。
※**電子マニフェスト**を利用して処理委託をした廃棄物については、【その２】の記入の必要はありません。また、記入するかわりに**産業廃棄物管理票交付等状況報告書**のコピーを添付していただいても構いません。
※不要となったものを「**売却**」している場合、廃棄物等に該当しない場合もありますが、調査の対象としていますので、【その２】の記入をお願いします。
※ご提出いただいた調査票の記入内容について、電話等により確認させていただく場合もありますので、**必ず調査票の控えを取っておいていただきますようお願いいたします。**
※Ｅ-mailで回答される場合は、sanpai@teijin.co.jpへ送信くださいますよう、お願いいたします。

調査票（その1）の記入要領・

□ の部分が、記入箇所です。記入例を参考にして調査票【その1】に記入してください。

事業所の概要	事業所名	株式会社〇〇			事業内容：該当する番号に〇をつけてください。
	所在地	〒 ×××-×××× 三重県〇〇市△△町□□番地			① 総合工事業 ２ 職別工事業 ３ 設備工事業
	ふりがな	みえ　たろう	担当部課	総務部　総務課	
	記入者氏名	三重　太郎	電話番号	〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇〇	

元請工事実績及び内容

元請工事の有無（三重県内）

貴事業所の三重県内での令和５年度元請工事の有無について、該当する番号を〇で囲んでください。

① 元請工事　有（三重県内）
２．元請工事　無（三重県内）

元請完成工事高

三重県内での元請完成工事高(出来高工事を含む)を記入してください。

	千億	百億	十億	億	千万	百万	十万	万	
令和５年度			1	4	8	9	0	0	万円/年

※共同企業体（JV）による工事については、各社の持ち分を元請工事高として計上して下さい。

地区別構成比（令和５年度の元請完成工事高のおおよその地域割合）

桑名・員弁地域	四日市地域	鈴鹿・亀山地域	津地域	松阪地域
桑名市、いなべ市、東員町、木曽岬町	四日市市、菰野町、朝日町、川越町	鈴鹿市、亀山市	津市	松阪市、多気町、明和町、大台町
50	10		10	

（%）

伊勢志摩地域	伊賀地域	尾鷲地域	熊野地域
伊勢市、鳥羽市、玉城町、南伊勢町、度会町、志摩市、大紀町	伊賀市、名張市	尾鷲市、紀北町	熊野市、御浜町、紀宝町
30			

（%）

廃棄物等発生の有無

令和５年度の１年間に産業廃棄物等（事業所で不要となり、有償で取引されたものを含む）は発生しましたか。該当する番号に〇を付けてください。

① 発生した　　２．発生しなかった

産業廃棄物等が発生していない事業所に対するアンケートはここまでです。このままご返送ください。

別紙「調査票の記入要領・記入例」を参考にして、
本票裏面の「調査票【その２】」に貴事業所から発生した廃棄物等の状況について記入してください。

建設業

＜調査票の記入要領・記入例＞

調査対象期間

●この調査の対象期間は、**令和５年度（令和５年４月１日～令和６年３月31日）の１年間**です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を質問①～⑪までの流れに従って記入してください。

調査対象とする事業所と廃棄物

●この調査では、**県内で施工した元請工事から発生した副産物（産業廃棄物、有償・無償引渡物）**が記入の対象となります。
●廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別紙に**「廃棄物分類番号表」を掲げてありますので参考にしてください。**

発生量について

●発生した廃棄物の「名称」と「発生量」の回答欄には、**「焼却」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「発生量」**をお答えください。

○**自社で脱水**している場合の発生した廃棄物とは**脱水前のもの**です。（記入例を参考にしてください）
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された１年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算してください。
＜式＞：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（１００％－脱水後の含水率％）÷（１００％－脱水前の含水率％）

○**自社で焼却**している場合、発生した廃棄物とは**焼却前のもの**です。
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答えください。
○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。　→　中和処理後の「汚泥」を発生量とします。
○含油廃水を油水分離した場合。　→　油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（それぞれ１行ずつを）発生量とします。

●廃油（機械油など）について
○ドラム缶の本数で把握されている場合は、１本＝１８０kg（２００リットル）
○一斗缶の本数で把握されている場合は、１本＝１６.２kg（１８リットル）　として換算してください。

●廃タイヤについて、本数で把握されている場合は、
○大型車用：４０ｋｇ/本
○普通車用：７ｋｇ/本　　として換算してください。

記入について

- **記入対象は、事業活動によって発生する産業廃棄物、有償あるいは無償で引渡している副産物です。**
- **同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行を分けて記入してください。**
- **処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票等を参考にして記入してください。不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認した上で記入してください。**
- **電子マニフェストとマニフェスト伝票を併用している場合は、マニフェスト伝票（紙マニフェスト）について①～⑪まで記入してください。もしくは、記入するかわりに「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」の控えのコピーを添付していただいても構いません。**

④中間処理方法コード表

Ａ：焼却
Ｂ：脱水
Ｃ：天日乾燥
Ｄ：機械乾燥
Ｅ：油水分離
Ｆ：中和
Ｇ：破砕
Ｈ：分級
Ｉ：圧縮
Ｊ：溶融
Ｋ：切断
Ｌ：焼成
Ｍ：堆肥化
Ｎ：銀回収
Ｏ：ｺﾝｸﾘｰﾄ固型化
Ｐ：乾燥滅菌
Ｑ：焙焼
Ｒ：造粒・混練固化
Ｓ：炭化
Ｖ：濃縮
Ｗ：油化
Ｘ：選別

⑥処理・処分方法コード表

＜自己処理＞
Ｖ１：自社（または自社他工場）で再利用した。
Ｖ２：売却できないものを自社で再利用した。
Ｗ１：売却（利益があった）した。
Ｚ１：自社で保管している。
Ｑ１：自社（または自社他工場）の処分場で埋立処分した。

＜産業廃棄物処理業者等へ委託処理＞
Ｕ１：処理業者に中間処理を委託した（資源化・リサイクルを含む）。
Ｘ１：廃品回収（資源）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。
Ｓ１：処理業者の処分場で中間処理をせず、直接埋立処理した。
Ｔ１：処理業者で直接海洋投入した。

＜市町村へ委託処理＞
Ｒ１：市町村等が設置する一般廃棄物処分場で埋立した。
Ｒ５：市町村の清掃工場で焼却等の中間処理をした。（ごみ収集を含む）
Ｒ６：市町村の清掃工場でリサイクルした。

＜その他＞
Ｚ９：その他

⑨委託中間処理方法コード表

Ａ：焼却
Ｂ：脱水
Ｃ：天日乾燥
Ｄ：機械乾燥
Ｅ：油水分離
Ｆ：中和
Ｇ：破砕
Ｈ：分級
Ｉ：圧縮
Ｊ：溶融
Ｋ：切断
Ｌ：焼成（セメント原材料）
Ｍ：堆肥化（発酵）
Ｎ：銀回収
Ｏ：ｺﾝｸﾘｰﾄ固型化
Ｐ：乾燥滅菌
Ｑ：焙焼
Ｒ：造粒・混練固化
Ｓ：炭化
Ｖ：濃縮
Ｗ：油化
Ｘ：選別

⑪資源化用途コード表

１０：鉄鋼原料
２０：非鉄金属等原材料
３０：燃料
３１：木炭
４１：飼料
４２：肥料・堆肥
４３：土壌改良材
５０：土木・建設資材
５１：再生木材・合板
６０：パルプ・紙原材料
７０：ガラス原材料
８０：プラスチック原材料
８１：再生タイヤ
９０：セメント原材料
９１：再生油・再生溶剤
９２：中和剤
９３：コークス炉原料・高炉還元剤・ガス化
９８：その他

調査票（その2）の記入例

太字 の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票（その2）を記入してください。

別紙の「廃棄物分類番号表」を参照してください。

該当する単位に、必ず〇をつけてください。該当する単位がない場合は数字の後に記入してください。

微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0（ゼロ）」を記入し、単位はkgに〇を付けてください。

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入してください。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、分かる範囲で記入してください。

⑩処理後の処分方法
1. 再生利用・リサイクルしている。
2. 埋立処分している。

	区分 D2	行番	①廃棄物の名称	②分類番号	③年間発生量 百万 十万 万 千 百 十 一 小数点以下	単位	④方法番号 1次処理 2次処理 3次処理	⑤中間処理後量 百万 十万 万 千 百 十 一 小数点以下	単位	⑥処理・処分の方法	⑦処理・処分先又は再生利用先の名称	⑧処理・処分先又は再生利用先の所在地	⑨方法番号 1次処理 2次処理 3次処理	⑩処理後の処分方法	⑪資源化用途
			工事現場などで発生した廃棄物等の発生量				工事現場又は自社での中間処理			自社処分・自社再利用、委託処理			委託中間処理		自社・委託での資源化
記入例：A		1	**電子マニフェストを使用**	自社で中間処理を行わず、すべて電子マニフェストを利用して処理委託している場合は②～⑪の記入は必要ありません		kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ			kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ			都道府県 市区町村		1・2	
記入例：B		2	**ベントナイト汚泥**	0 2 2 1	6 0 0	kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ	B	1 0 0	kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ	U1	**電子マニフェストを利用**	電子マニフェストを利用して処理委託している場合は⑧～⑪の記入は必要ありません			
記入例：C		3	**プラスチック類**	0 6 0 0	9 5	kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ			kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ	W1	**㈱△△産業**	**奈良** 都道府県 ○○ (市区)町村		1・2	80
記入例：D		4	**木くず**	0 8 1 0	3 0	kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ			kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ	U1	**□□商店**	都道府県 ○× (市区)町村	G	1・2	30
記入例：E		5	**プラスチック類**	0 6 0 4	1 0	kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ	A	1	kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ	S1	**㈱×□**	都道府県 ○△ (市区)町村		1・2	
記入例：F		6	**塩ビ管**	0 6 0 8	5	kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ			kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ	U1	**■▼㈱**	都道府県 ×● (市区)町村	I	1・2	30
記入例：G		7	**コンクリート片**	1 5 0 1	1 2 0	kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ			kg (t) m³ ﾘｯﾄﾙ	U1	**△△㈱**	都道府県 ×▽ (市区)町村	G	1・2	50
記入例：H		8	**建設混合廃棄物**	2 0 0 0	7 0 5	(kg) t m³ ﾘｯﾄﾙ			kg t m³ ﾘｯﾄﾙ	U1	**㈱×▼**	都道府県 ×● (市区)町村	X G	1 2	10 50

ここでは、中間処理、再生利用や売却した先の名称を記入してください。委託した廃棄物が中間処理後に埋立処分されている場合は、中間処理業者の名称を記入してください。

記入例：A
- 工事現場から**コンクリートがら**などが発生し、自社では中間処理を行わず、すべて**電子マニフェスト**を利用して処理を委託した。

記入例：B
- 工事現場から**ベントナイト汚泥**が発生したが、すべて**工事現場内で脱水**した。
- 脱水後の汚泥量は、**100t**（含水率70％）であった。
- 脱水前の量は、計算していないので正確でないが、脱水前の含水率が95％であるため計算すると**600t**となる。
（計算式　100t×(100－70)÷(100－95)＝600t）
- 処理後の汚泥は、**電子マニフェスト**を利用して処理を委託した。

記入例：C
- プラスチックごみが年間**9.5t**発生したが、すべて、**奈良県〇〇町の㈱△△産業**に売却した。
- 相手先では、**プラスチック原材料**として**再生利用**している。

記入例：D
- 工事現場から**建設木くず**が年間に2t車で30台分（すべて満杯）発生した。
- 1台当たりの重量が1t程度であるため、重量に換算すると、**30t**である。
- これは、**〇×市にある□□商店**に料金を払って処理を委託した。
- 相手先では、**破砕チップ化**し、**燃料**として**再生利用**している。

記入例：E
- 工事現場から**プラスチック製品くず**が年間**10t**発生した。
- すべて**自社の焼却炉で焼却**した。その灰の量は年間で**1t**程度であり、**〇△町にある㈱×□**の処分場で**埋立処分**した。

記入例：F
- 工事現場から塩ビ管が年間5t発生した。
- これは、**×●市にある■▼㈱**に中間処理を委託した。
- 委託先では**圧縮**して**固形燃料**を製造している。

記入例：G
- 工事現場から**コンクリートのがれき等**が10tダンプで12台分発生した。重量に換算すると**120t**程度である。
- これは、**×▽市**に破砕プラントを保有する**△△㈱**に中間処理を委託した。△△㈱では**破砕**後、**骨材**として**再生利用**している。

記入例：H
- **混合廃棄物**が**70.5t**発生した。
- これらは、すべて**×●市**の処分業者**㈱×▼**に処理を委託した。
- **㈱×▼**では、**選別**し、一部は再生利用し、一部は**破砕後、埋立処分**している。